



ウィンタースポーツ

市内にはスキー場が10か所あり、家族向けから上級者向けまで多岐にわたるコースが楽しめます。

そり

スキー場のキッズスペースや雪山になった場所で楽しめます。

しみわたり

夜間の放射冷却で冷え込んだ朝は、カチカチになった雪の上をどこまでも歩ける「しみわたり」が楽しめます。

雪だるま・かまくら作り

より大きく、より美しく、追求するタイミングがないのがこの世界。子どもも大人も楽しめる遊びです。

雪合戦

雪と相手がいれば、そこはもう合戦場。雪玉は当たると痛いので固める強さはほどほどに。

白が織りなす風景

数日雪が降り続いた後の快晴となった雪景色は誰をも魅了します。



冬の服装 in南魚沼市

・帽子

あればあったか。上着もフード付きを選びがち

・防水の手袋

南魚沼の雪は水分を含む湿雪。毛糸の手袋の人もいるけど防水でないですぐ濡れるので防水推奨。

・長靴

深い雪に入られるように、高さは30センチ以上推奨。ショートブーツの人も防水機能だけは外せません。ツルツルの靴底ではキケンなので靴底も滑りづらいものを！通勤は長靴、会社では靴に履き替えるのがベター。

・傘はなくても

手がふさがってしまうので、少しの雪なら帽子をかぶって傘をささないことも。



・防寒着

南魚沼の雪は湿雪なので基本的に防水or撥水機能が必須。雪や水がはねることもあるのでロングタイプがおすすめ。オシャレなコートは晴れの日に。

・リュック

多くの人が使うのは両手を空けておけるタイプのバッグまたはリュック。滑りやすい雪道では、手がふさがってしまうタイプのバックはキケン。



南魚沼 冬の くらしかた BOOK



MINAMI UONUMA



南魚沼の冬ってこんな感じ

• やっぱ寒い

最も寒い1月の平均気温は1.1℃。
東京の1月平均気温は5.4℃なので
4℃くらい違い、防寒対策は必須です。



• 冬の積雪は毎年1m超え！

日本有数の豪雪地帯にある南魚沼市の
積雪は、雪が少ない年でも1m超え。
多い年には積雪3mを超えることもあります。



• エアコンで十分冬が越せる

エアコンの暖房性能は年々向上しているため冬の暖房は都会と同じくエアコンで対応可能。エアコンが古かったりアパートによっては石油ファンヒーターやコタツを併用すれば冬の室内もほかほか。



• 空模様は曇りがち

新潟の1月の日照時間は東京と3倍近く差がある
ようで、雪が降ってなければ基本的に「晴れ」認識。曇りがちなので洗濯物は基本的に室内干し。けれど、日照時間が少ないので日焼けしづらく、肌に優しい場所なのかも？

• アパート住まいなら

除雪はほとんど不要

すべてのお宅が除雪をしなければならなかったのは昔の話。アパートであれば住居や駐車場の除雪は入居者でやることはほとんどありません。
ただし、屋根なしの駐車場の場合は車に積もった雪を落とすくらいは必要。



• 道路状況は意外と快適！？

ほとんどの人が車で移動となる南魚沼の冬。
ハイシーズンには一晩で数十センチの積雪になることもありますが、除雪車と消雪パイプにより交通が確保されるので運転も安心。
ただしスタッドレスタイヤは必須。

雪道 HOW TO

滑りやすいみちでは

「ペンギン歩き」

歩幅を小さく、体の重心をやや前のめりにして、かかとから地面につきそろそろと歩けば転びにくいです。



水たまりに注意 ⚡

消雪のために流した水が溜まった道を走行するときは、タイヤではね上げた水しぶきが歩行者にかからないように少しスピードを緩めるのがマナー。



消雪パイプ

道路に埋め込んだパイプから路上に設置したノズルを通して路面へ水を散布する除雪装置。市内の多くの道に設置してあります。



落雪注意 ⚡

屋根に上がって雪下ろしをする必要がない自動落雪式屋根の家が主流になってきており、頭上には要注意！

雪道は時間と心に余裕をもって

出発前に雪かきや車の雪下ろしをする、雪壁などで視界不良で運転速度が遅くなる、除雪車が道を作業中で渋滞発生など、雪道は運転に時間がかかることがあります。出発時間を早めたりして、時間にも心にも余裕をもつことが大切。



車の雪落としのススメ

車載しておきたい道具

• スノーブラシ
雪国でこれを積んでいない車は存在しない。

• スコップ
車載しても使う機会は少ないが、警報級の降雪があったときの保険。

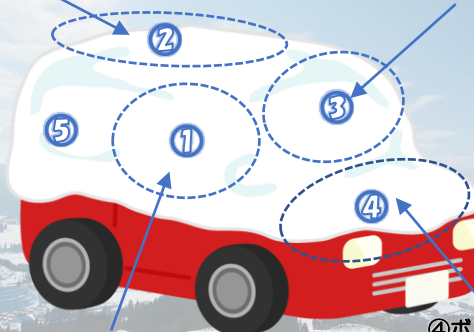
• 防水手袋
雪落としの際の必須アイテム。

• ブランケット
車内が寒いときも手早くあったか。非常時の防寒にも。

②次にルーフ

ここの雪を面倒がって落とさずにいると運転中にフロントガラスに雪が落ちてきたりして大変なことに。車の左右に分散させて雪を落としましょう。

③次はフロントガラス
フロントガラス上部から順に、車の左右に向かって落とします。運転時の視界に関わるのでいちばん丁寧に！



⑤最後に残りの窓など
最後にリアガラスと運転席以外の窓、サイドミラーをキレイに。また、乗り込む前に運転席ドアの雪を再度キレイにすると、乗り込むときに車内に雪が落ちません◎

①まずは運転席

運転席に雪を入れることなく搭乗するためにはまずは運転席ドア付近の雪落とし。ここの雪を落としてワイパーがOFFになっているか確認したら、一旦エンジンをかけフロントエアコンとリア熱線をONしてから、次の箇所に取り掛かる。

④ボンネットとヘッドライト
ここは割と雑にやってもOK。ただし雪を落とす方向には注意。車の前に落としてしまうと急発進するときに障害物となってしまう、進めなくなることも。ヘッドライトもキレイにしないと夜道がよく見えません。

除雪グッズ いろいろ



※スノーブラシ

車の雪下ろしに使う除雪器具で、伸縮性のものや木製のものなど形状は様々。ゴムワイパーとブラシがついていて、車を傷つけることなく雪下ろしができる優れもの。



※スノープッシャー（ラッセル）

雪を持ち上げずに押して除雪するための道具。スコップよりも負担が少なく多くの雪を運ぶことができるが、引っ掛けや段差のない平坦な場所でないといえず、また雪が多すぎるときにも弱いため時と場合を選ぶ。階段や玄関前の除雪には無類の強さを誇る。



※スノーダンプ

その名のとおり、大量の雪を一気に運べる除雪器具。多くの雪を移動させることに特化しており、持ち上げるように使うことはありません。雪の上をソリのように滑らせて移動するため、プッシャーよりも移動に力がいらぬのも特徴。素材も鉄製やアルミ、プラスチック製など様々あり、スコップに次ぐ定番除雪器具。



※スノースコップ

最もスタンダードな除雪器具で、伸縮性のものや折り畳みのもの、金属製やプラスチック製など種類も豊富な雪かき界の万能選手。スコップがあればとりあえずどんな除雪も可能。